

＜応用実習の内容＞

①保育への参加・記録

保育の基本は、一人ひとりの幼児をよく理解することです。毎日保育に加わり、視点を決めて幼児を見ていくことが大切です。

保育後には、学級全体と幼児個人（全員分）について、専用のノートに記録します。

②環境整備・保育の準備

幼児の登園前と降園後に、分担して園内を清掃します。

保育後は、翌日の準備を担当と一緒にいきます。その際、教材の意図等も確かめておくようにします。

③観察実習

実習中に二日間行います。配属学級以外も観察し、記録を取ります。

一日目は、年齢ごとの幼児の実態把握について、二日目は、実態に応じた指導について観察します。

④部分実習

実習生が一人で部分的な指導（お話をする場面、遊びの場面の二回）を行います。

事前に担任と相談しながら指導案を作成し、指導後には振り返って省察したり、他の実習生と共に振り返ったりします。

⑤全日実習（研究保育）

指導内容と方法を吟味し、前日までに指導案の作成と教材の準備を終えます。

実習中は、とっさの判断も要求されますが、責任をもって対処します。保育後は、指導後には振り返って省察したり、他の実習生と共に振り返ったりします。

⑥その他

遠足の引率などの行事に取り組みます。ピアノでの弾き歌いとして、二曲程度の課題曲があります。実習期間中は、教材研究等があり、ピアノ練習に時間を当てられませんので、実習開始前によく練習し、曲や歌詞の魅力をつかんでおきます。